

「歌」で伝える沖縄戦

読谷小学校 六年 二組 安井 寿将

ぼく達が、いつもなにげにきいている歌、  
そんな歌の中には、戦争のひさんさや悲しさ、  
や、平和への思いがこめられた歌があります。  
そんな歌を、ぼくは知べてみることにしまし  
た。

読谷村にある、「艦砲ぬ喰えー残さー」歌  
碑は、沖縄戦を生き延びてきた人々の悲しさ  
を歌った歌碑です。沖縄民謡「艦砲ぬ喰えー

残さー」の「苦さる時ね戦争ぬせ」で始まる  
歌詞には、戦争で家族や仲間を失った悲しみ  
や、戦争のひさんさが込められています。

「島唄」は、そんな戦争の悲しみや平和へ  
の思いが込められた歌です。ぼくは、初めて  
きいたときはまさか戦争の歌だとは思いませ  
んでした。サビの「島唄よ風に乗り、鳥とと  
もに、海を渡れ」や「島唄よ風に乗り、届け  
ておくれ私の涙」という歌詞には、戦争で  
亡くなっってしまった人々への思いがこめら

ています。

「さとうきび畑」という歌は、第二次世界  
大戦で、亡くなっ、てしまっ、た人々や、集団自  
決をしてしまっ、た人々が今でもさとうきび畑  
の下で眠っ、ているというこ、とを歌にした曲で  
す。歌詞にでてくる「ざあわ」という表現は、  
風で、さとうきびがゆれる音だ、ろうです。読谷  
村には、「さとうきび畑」の歌碑というの、が、  
そとうきび畑の一角に建立さ、れ、四月一日に  
除幕式が行われま、した。

ぼくは、戦争のひ、さんや悲し、く、平和へ  
の想い、かこめられた歌がある、とは思、いません  
でした。歌で戦争のひ、さんさを伝える、という  
ことは、と、てもすごい事だ、と思、います。改  
めて、戦争について知、り、平和の大切さを知  
るこ、とができました。

このように、沖縄には平和につ、いての歌が  
ほ、りれた「歌碑」や、「歌」を通、して戦争の  
苦し、さや悲し、さ、ひ、さんさを伝えてい、きたい  
です。<sup>な、ど、が、あ、り、ま、す。</sup>

沖繩には、「命ぬちどうたから宝たから」という沖繩ことわざがあります。意味は、「命は、何よりも一番大切な宝物」という意味です。ぼくは、このことわざを聞いて改めて命をだいじにしようと思いました。このことわざは、戦争のことについて関係していると思います。戦争で戦死してしまったり、た人々、そして防空壕に追いつまされ、集団自決をしてしまったり、た人々も、同じ「何よりも一番大切な命」がありました。その「命ぬちどうたから宝たから」の心を忘れずに生きたいです。